

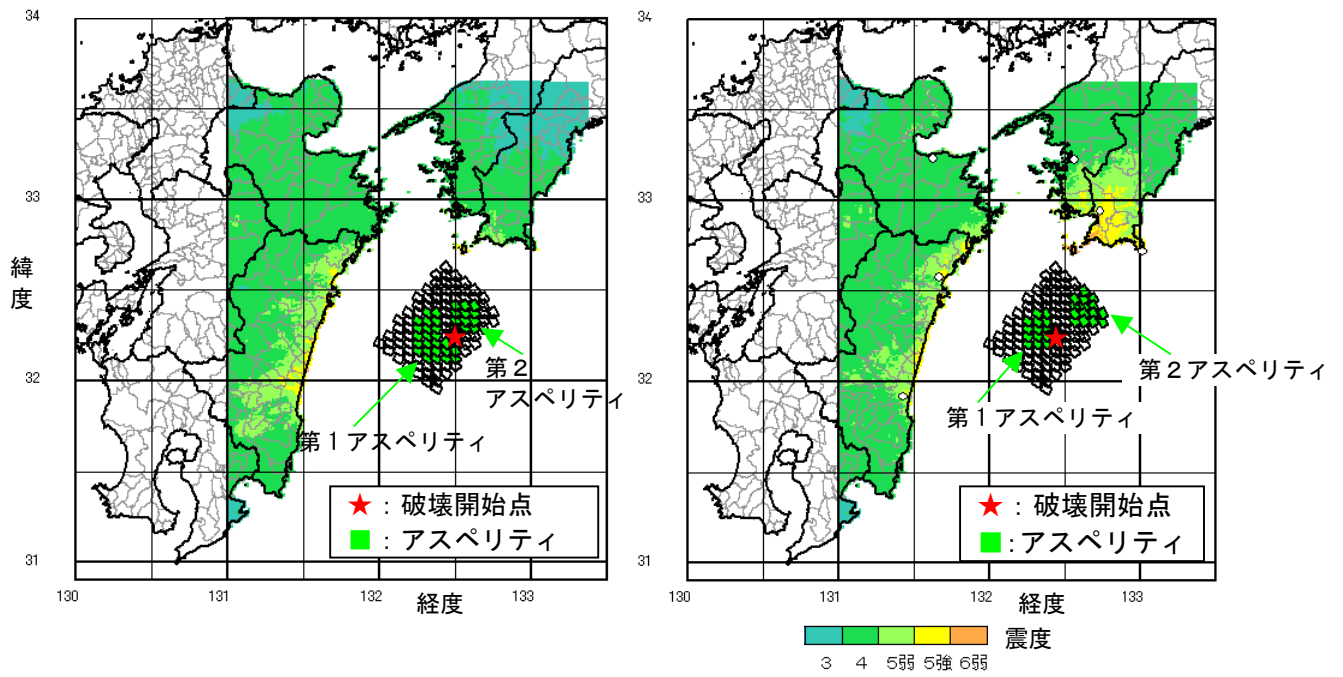
(a) 初期の震源断層モデル
(モデル1)

(b) 修正後の震源断層モデル
(モデル2)

震源特性	ケース1 (1968年)			
	モデル1		モデル2	
微視的震源特性				
断層全体の短周期レベルA (Nm/s ²)	3.29E+19		-	
全アスペリティの面積S _a (km ²)	998		803	
全アスペリティの平均すべり量D _a (m)	3.69		3.69	
全アスペリティの地震モーメントMo _a (Nm)	1.55E+20		1.25E+20	
アスペリティの個数	2		2	
	第1アスペリティ	第2アスペリティ	第1アスペリティ	第2アスペリティ
アスペリティの面積S _{ai} (km ²)	667	331	390	413
アスペリティの平均すべり量D _{ai} (m)	4.17	2.94	3.64	3.74
アスペリティの応力パラメータσ _a (MPa)	10.4	10.4	13.1	26.2
アスペリティの地震モーメントMo _{ai} (Nm)	1.17E+20	4.10E+19	5.98E+19	6.52E+19
背景領域の地震モーメントMo _b (Nm)	8.46E+19		1.15E+20	
背景領域の面積S _b (km ²)	2084		2279	
背景領域のすべり量D _b (m)	0.96		1.20	
背景領域の応力パラメータσ _b (MPa)	1.3		2.0	

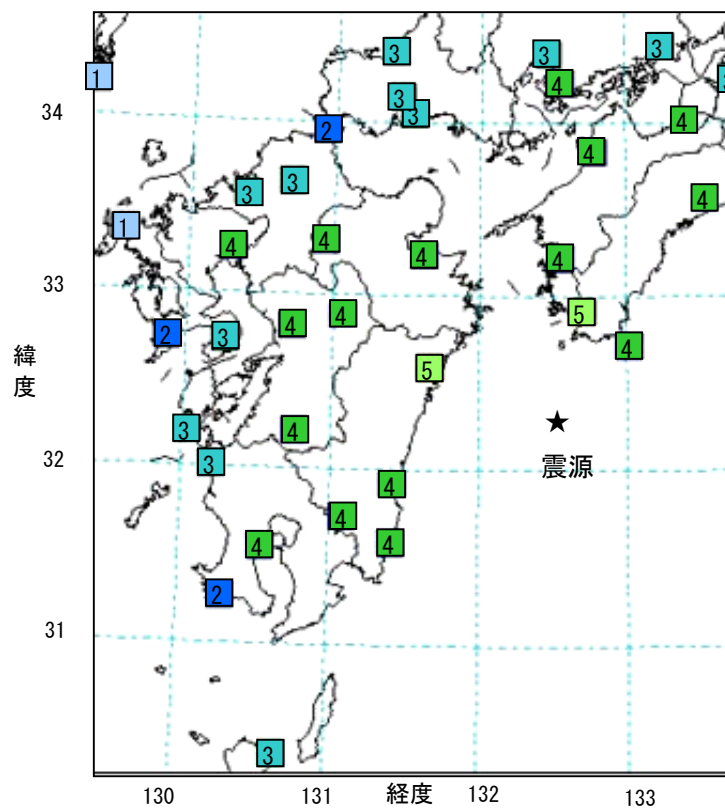
(c) 修正を行った微視的震源特性の比較

図27-1 ケース1における初期の震源断層モデル(モデル1)と修正後の震源断層モデル(モデル2)の比較(震源断層モデル図と震源断層パラメータ)



(a) モデル1

(b) モデル2



(c) 1968年日向灘地震の震度分布 (再掲)

図27-2 ケース1におけるモデル1とモデル2の比較
(震度分布図)